

# 鴻巣市の概要

埼玉県のほぼ中央、都心から 50 km 圏内に位置する鴻巣市は、周囲を 3 市 5 町に接している。市の南西部には秩父山地を源流とする荒川が流れ、関東ローム層や荒川沖積層からなる肥沃な土地は、気候にも恵まれ、花きや果樹等の栽培に適している。江戸時代には中山道の宿場町として栄え、370 年余の伝統を誇る「ひな人形のまち」として、また近年では「花（鉢物）の産地」としても全国的に有名である。昭和 29 年に 1 町 5 カ村が合併して、県内 17 番目の市として誕生した「鴻巣市」は、東京のベッドタウンとして発展し、現在に至っている。

市域は、東西約 9.28 km、南北約 7.72 km で、総面積は 35.87 k m<sup>2</sup>。そのうち、田畑が約 47%、宅地が約 24% を占める。古くからの農村地帯と近年の宅地開発で整備された新市街地とが共存する形で発展してきた。昭和 29 年に人口 31,394 人、世帯数 5,638 戸でスタートしたが、平成 15 年 7 月 1 日現在、人口 84,340 人、世帯数 29,589 戸と人口の増加基調が続いてきた。近年は人口がほぼ横ばい、世帯数が微増傾向で推移している。

交通は、JR 高崎線と国道 17 号、上越新幹線が南北を貫いており、各主要幹線道路が市の中心部から周辺市町へと通じている。また、「鴻巣駅」「北鴻巣駅」の 2 駅を利用して、上野、高崎方面へ連絡している。バス路線は川越、東松山、加須、上尾方面へ運行されている。平成 14 年 1 月からは鴻巣市・川里町広域循環バス「フラワー号」の運行が開始され、鴻巣市と川里町の広いエリアを鴻巣駅・北鴻巣駅とそれぞれの公共施設を經由し、平日 39 本、休日 18 本で運行している。

市の農業は、依然として米麦が基幹作物となっているが、最近では都市近郊の地の利を活かした施設花き、果樹、施設野菜等の集約農業が盛んでカランコエ等の鉢物やパンジー等の苗物、梨等の果樹が高い評価を得ている。平成 14 年 9 月に開業した花き卸売市場「鴻巣フラワーセンター」は東日本最大規模の花き流通の拠点となっている。また、商業施設は、従来からの旧中山道沿道の商店街と鴻巣駅周辺及び市の中心部に集積しており、近年は郊外にビバホーム等の大型店が多く出店している。

鴻巣市は、平成 20 年（2008 年）を構想年次とした「第 4 次鴻巣市総合振興計画」を平成 11 年に策定、平成 15 年を目標年次とした前期計画を進め、都市基盤整備や都市近郊型農業の育成・強化等に取り組んでいる。既に三ツ木土地区画整理事業、原馬室・滝馬室土地区画整理事業は進行しているが、今後は鴻巣駅東口再開発事業、北鴻巣駅西口土地区画整理事業を推進していくことが急務となっている。鴻巣駅東口の市街地再開発事業では、駅周辺と旧中山道商店街等の旧中心商業地に連たん性を持たせ、コミュニティ道路の整備や鴻巣公園、勝願寺といった都市の資源におけるイベント等の開催により、回遊性のある中心市街地形成を図ることが期待されている。